

「教養とは、人の心が解る心」

当 HP の「『母が娘を 18 年 “軟禁” 義務教育受けさせず』を目にして」の記事に、やはり、行政が毎月 1 度母親と 9 年間も面会しながら、少女を支援できなかったことにやりきれなさを感じたコメントをいくつかいただいた。

その中に次のようなコメントを寄こしてくれたメル友がいた。

【 仕事相手にすぎなかったのかもしれませんが、その母子は…。

人と向き合うことって、なかなか難しいですね。

自分自身が自分の弱さや強さと向きあえてないと、相手と真正面から向き合えないですね。

「専門」の前に、人として成長できてる人がどのくらいいるのか…疑問だな…と思いました。

自分の身を置き換えて考えてみたり、相手の身になって考えてみることで気付くことって、たくさんたくさんあると思うんですけどね…。

そうならないのは、何のせいなのでしょう。

哀しいことですね。 】

次のように厚かましく返信した。

【 「何のせい」と聞かれれば、簡単に云えば「生きてる」ことをそう考えてないということかな。

毎日みんな「生きてる」のに、「生きている」のは当然のこととて思い、「生きる」とはどういうことをあまり意識していない。また、明日不幸せになりたくて今日を生きる人もいないはず。じゃあ、「明日の幸せのために、今日をどう生きるか」をあまり意識していない。

そのくせ、何かあると「私は不幸、生きてるのが嫌」という。日頃考えていないから、ちょっとしたことでも狼狽えてしまう。

つまり、あなたの云う「相手の身になって考えない」人は、自分が「生きること」、「幸せになること」を日頃意識して考えていないということになるかな。

だって、人は一人では生きられないし、幸せは人との関係（相互交渉）でこそ、自覚できるものだけに、あなたの云う「人として成長できてる人」とは、必然的に相手のことを考えてる人のことですね。

福岡の事件は、我が身の保身故か、あなたのいうように単なる「仕事相手（対象）の母親」としてだけで接し、専門職として、母親の心の本音、肝心な少女を思い遣っていないですね。

「教養とは、人の心が解る心（養老猛司）」のようですから、最近では、教養のない専門家が多数ということになるかな。 】

なお、コメントのいくつかは「雑学 BN」の「メル友・コメント等関係（Ⅱ）」P、2005.12.11.

「『母が娘を 18 年 “軟禁” 義務教育受けさせず』を目にしてへのコメント」に掲載していますので、参考までにお目通しください。